≪難病を正しく理解していただくために≫

令和８年１０月改訂

後縦靱帯骨化症とは　どんな病気？

後縦靱帯骨化症は、脊椎椎体の後ろ側にある後縦靱帯が厚くなり、骨に変わる（骨化）ことにより、神経（脊椎や神経根）が圧迫され感覚障害や運動障害等の神経症状を引き起こす病気です。この病気が起こった場合、首筋や肩甲骨周辺・指先の痛みやしびれがあります。症状が進行すると、脚のしびれや感覚障害、足が思うように動かない等の運動障害、両手の細かい作業が困難となる手指の巧緻運動障害などが出現します。重症になると立ったり歩いたりすることが困難となったり、排尿や排便の障害が出現するなど、一人での日常生活が困難になることもあります。

患者さんはどのくらいいるのですか

わが国の後縦靱帯骨化症の患者数は、令和２年度における特定疾患医療受給者証の交付件数でみると約 36,000 人となっています。病気が発症するのは中年以降、特に 50 歳前後で発症することが多く、男女比では２：１と男性に多いことが知られています。また、糖尿病の患者さんや肥満の患者さんに後縦靱帯骨化症の発生頻度が高いことが分かっています。

後縦靱帯骨化症の主な症状



指先の痛みやしびれ



足のしびれ



足が思うように動かない



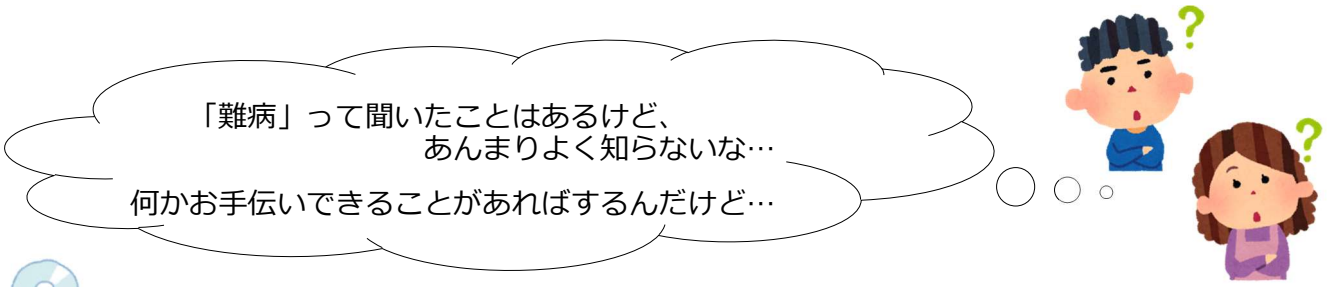
下肢の脱力やしびれ

軽微な外力で神経の障害が急速に進行したり、四肢麻痺になることもありますので、転倒などには十分注意する必要があります。

難病の患者さんのなかには、援助や配慮を必要とすることが外見からは分かりにくい方もおられますので、困っているようであれば、援助や配慮をお願いします。

裏面もご覧ください

知ってください！「難病」のこと





難病は、発病の原因が明らかになっておらず、治療方法が確立していない病気なんだ。
発症割合は低いけれど、誰もが発症する可能性があるんだよ。

「難病の患者に対する医療等に関する法律」において、

難病は**「発病の機構が明らかでなく、かつ、治療方法が確立していない希少な疾病であって、当該疾病にかかることにより、長期にわたり療養を必要とすることとなるもの」**と定義されています。



難病の患者さんの症状は様々です。長期の療養生活を必要としますが、適切な治療等を行い管理を継続することで、在宅での療養生活や就労、就学が可能な疾病もあります。

○難病のうち、国が指定する疾病に該当する方に対して、法律に基づき医療費の自己負担の一部を公費で負担する制度があります。（指定難病　医療費助成事業）

＊対象となる疾病などについては、「難病情報センター」のサイトにて確認できます。
http://www.nanbyou.or.jp/

＊詳しくは、大阪市の難病対策に関する大阪市ホームページにてご確認ください。

https://www.city.osaka.lg.jp/kenko/page/0000074083.html

なお、小児の方へは、「小児慢性特定疾病　医療費助成制度」もあります。

ご存知ですか？ヘルプマーク

難病の患者さんのなかには、ヘルプマークをお持ちの方もおられます。

ヘルプマークとは、義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、または妊娠初期の方など、援助や配慮を必要としていることが外見からは分からない方が援助を得やすくなるよう作成されたマークです。ヘルプマークを身に着けた方を見かけた場合は、電車・バス内で席をゆずる、困っているようであれば声をかけるなど、思いやりのある行動をお願いします。


（赤地に白の十字とハート）

電車・バスの中で、席をおゆずりください	駅や商業施設等で、声をかけるなどの配慮をお願いします	災害時は、安全に避難するための支援をお願いします

お問合わせ先　：　大阪市健康局保健所管理課　　電話　06－6647－0923